

四天王寺太子学園

児童期の支援には社会とのつながりが不可欠です。新型コロナウイルス感染の流行、拡大により、万全ではないものの、児童個別に応じて社会経験、自立支援にも取り組みました。

施設内で、新型コロナウイルス感染のクラスターが発生した際においても、業務継続計画をもとに、感染拡大対策に努めました。高等部卒業の児童においては、一部退所が遅延するなどありましたが、おおよそ予定の通りに手続きを進められました。

成長期における児童の支援において、「できる満足感」「わかってもらえる安心感」を付与できることを最優先に支援に努めました。

～事業活動報告～

(1) サービス向上

- ・多職種参加のケース会議や本人面談を実施した意思決定支援を強化した取り組みは、児童個々の育ちの支援の充実、及び合理的配慮の視点に立った支援につながった。
- ・ケアニーズの高い児童の支援で、児童の暴力・暴言・破壊行為の対応は大変難しさがあり、今後も継続して専門性を高めていく必要がある。
- ・今年度から配置したソーシャルワーカーは、支援担当職員と連携しながら、児童の進路に関する役割を中心に活動した。体系的に実施でききことが効果的であった。

(2) 人財育成

- ・「育つ」「伸ばす」「深める」をテーマに施設の専門性に即した階層別研修を実施した。特に、職員個々の業務の間で学びの時間が取れるWEB研修は効率的で、コロナ禍において外部研修機会が減少する中効果があった。
- ・「間違いを正さねばならない」「教えてあげなければならない」という指導中心の関わりから傾聴、共感の人權的関わりに変化してきている。指針共有や障害特性の理解の向上が奏効した。

(3) 環境整備

- ・築49年の建物において、家庭的環境をつくることは困難であるが、生活空間を年齢で分け、小グループで活動、生活することや、トイレ、洗面所の改修、新たに作った多目的室の環境設定は、より個別的な対応が行いやすく児童が育つ良き環境への配慮となった。
- ・共同生活援助グループホームオーロラのご利用者について、加齢、疾患による機能低下と建物の老朽化により生活しづらい状況が続いていたため、ご利用者、ご家族と相談の上すべてのご利用者が他の施設へ移行された。

(4) 財務

- ・老朽化による水道管破裂、水漏れ及び雨漏りに都度対応した。
- ・一定の入所者数の確保ができ、運営状況は比較的安定していた。

～改善活動～

(1) 業務効率化に向けてパソコン内の情報を整理した。業務内容の整理は維持、廃止の判断が難しく、次年度以降にも継続して取り組む。

(2) 委員会、係は業務内容を明確にして細分化し体系を見直した。令和4年度義務化される業務についても、先んじて実施した。